

# 長崎伝習所検討会議 (報告書)

令和元年12月

## 開催趣旨

「長崎伝習所」は、昭和61年に人材ネットワークづくりと地域活性化を目的に設立した。

幕末に徳川幕府が長崎に設置し全国から優れた若者が集まり、学び、さまざまな人と出会い、時代を動かしてきた「海軍伝習所」や「医学伝習所」に由来し、長崎の活性化と人材育成の場となるように「塾」事業と「つながり事業」を柱に事業に取り組んでいる。

令和2年度に35年目を迎えることから、30周年の際に検討し取り組んできた内容について振り返るとともに、現在長崎市が重点プロジェクトに掲げている「若者が楽しむことができる場づくり」や「若者がチャレンジできる場づくり」などの、長崎市の新たな動きを踏まえつつ、今後の事業展開等について検討する。

# スケジュール



回	日程	議題
第1回	10月31日（木） 19：30～21：00	伝習所のこれまでの取組について 長崎市重点プロジェクトについて 30周年検討会からの提言と事業実績について
第2回	11月14日（木） 19：00～21：00	30周年の提言を受けた取組の振返り
第3回	11月18日（月） 19：00～21：00	今後の方針や事業展開を検討
第4回	11月21日（木） 19：00～21：00	検討会議報告書案のまとめ

# 検討会議 委員名簿

## 運営委員

座長	兵働 馨	川さるく森川里海塾 塾長
運営委員	岡 清香	長崎商工会議所青年部 政策提言委員
運営委員	河村 規子	ノンブル 代表
運営委員	尋木 章弘	長崎新聞社 編集委員
運営委員	豊田 菜々子	NPO法人環境保全教育研究所 代表理事

## 外部委員

瓜生 信汰朗	長崎大学水産学部	ながさき海援隊
鍋内 佳奈	長崎純心大学	長崎多職種連携・たまごの会
森 恭佑	斜面地・空き家活用団体	つくる

## 背景

伝習所の活動や、まちづくりへの参画を考えたとき、人口減少・少子化・超高齢化・働き方改革・スマートフォンやSNSの発展など、伝習所を開設した30年前と比べて、人を取り巻く環境が大きく変化してきている。

地域の関わりが希薄になったり、人とのつきあいが苦手であったり、まちづくりへの興味があまりなかつたり、一人ひとりに余裕がなくなってきたり、過ごし方や価値観も多様化している。

また、SNSなどが発達したことで、そこから発信し、広く人とつながることができることで満足しているのではないか。

大学などでは、学生が地域課題と向き合うような多くの取組が実施されていたり、ましてや、まちづくり活動などに興味がある若者は、サークル活動や市民活動をすでに行っている。

## 伝習所の現状

これまでの伝習所を振り返ると、塾には、大学の先生が塾長として参加し、自然に学生も引き込まれていたり、市の職員も多く参加していたり、塾数も多く、賑わいや活気があった印象がある。

今の若者には、伝習所は身近ではなく、伝習所は大人が参加しているイメージがある。

- ・1年に活動する塾数や塾生数は、20年前と比べると約半数程度となっている。
- ・伝習所の最近の塾生の傾向として、30代以下の若者の参加は、塾生全体の約2割程度となっている。
- ・長崎大学の学生300名への聞き取りでは長崎伝習所を一人も知らなかった。

## 検討の ポイント

伝習所が活気ある活動になっていくように、また、伝習所を通じてまちづくりに関わりたい人を増やしていく、担い手を増やしていくことを念頭に置き検討を行った。

### 検討のポイント

- ・伝習所の認知度を上げる
- ・若者の参画を促す
- ・参加者を増やす
- ・スタイルを見直す

## 検討会議 での意見

- 伝習所の認知度を上げる
  - ・若者がまちづくりに関わる必要性を学ぶ機会が必要。
  - ・大学のキャリア研修・講義に絡めるなど、地域について学ぶ時間などを使い、伝習所について周知してはどうか。
  - ・商工会議所等まちづくりに知見がある関係機関に周知してはどうか。
- 若者の参画を促す
  - ・意欲はあるが、始め方がわからない若者を伝習所につなげることが必要。
  - ・活動しやすくなるようなサポート体制が必要。
- 参加者を増やす
  - ・定年後の活動の場をつくるなど、新たなつながりを生む展開を考えてみてはどうか。
- スタイルを見直す
  - ・実施期間などの自由度を上げ、3~4か月のスパンで活動する「ミニ伝習所塾」として実施してはどうか。
  - ・伝習所で活動してきた方の苦労や良かった点などを含めた経験を、人にフォーカスし発信することで、興味を引くきっかけになるのではないか。
- その他
  - ・具体的な数値目標などをたててはどうか。



# 長崎伝習所検討会議のまとめ

## これからの 伝習所

長崎伝習所は、長崎市よかまちづくり基本条例に掲げる「自分たちのまちは自分たちでよくする」という理念によるまちづくりを促す入り口になっている。

これまでの伝習所を再認識するとともにこれからの伝習所を見直し、もっと色々な人に伝えることで、活動したいけれどその活動の始め方が分からないために躊躇している人が一歩を踏み出すきっかけとすべきではないか。

伝習所は

自分の考えを実現できる場

人と出会い、経験を積む場

市との協働の仕組み

伝習所の魅力を伝え、多くの人の共感を得ることが重要である。

## 発信する

伝習所の発信方法は、過ごし方や価値観が変化した今、関心を引くには少し古い。  
(時代に合っていない)

伝習所に対して多くの方の共感が得られ、一緒にやってみたいと思ってもらえるよう、スタイルを変えて発信していくこと。

### ○伝習所の何を発信するか

- ・活動した人にフォーカスした発信
- ・伝習所に関わるとどう変わるかを発信
- ・伝習所の仕組みを発信
- ・わかりやすいコンセプトを発信

### ○どうやって発信するか

- ・ホームページをリニューアルする
- ・大学などでの周知をする
- ・関係機関等に周知する
- ・発信するチーム「伝習所をデザインする伝習所」を設置する

伝習所は、ゼロから始めるには少しハードルが高い。

躊躇している人が一步踏みだすきっかけとして参加しやすくなるように、伝習所の枠を広げ、まちづくりに参加する意義や必要性を学ぶ機会を創出する。

## 枠を広げる

- 伝習所での活動をサポートする人（制度）を設ける
- 多様なアイデアを形にできるよう、活動期間や活動内容の自由度の高い「ミニ伝習所塾」を設ける